

使いにくい新薬

画期的な薬だが、1年間の薬剤費が約610万円もするという。アメリカで使えるようになったアルツハイマー型認知症の新薬（新しい治療薬）の話である。

薬代があまりに高くては、必要な患者さんがいても使えない。薬がない時よりデメリットは多くないか？4月に日本で発売されたエムガティという片頭痛の予防薬も、そんな使いにくい薬の一つである。

エムガティというのは、片頭痛の原因物質の働きをブロックする抗体製剤で、片頭痛の発作を減らし、発作が起きても軽くする注射薬である。

臨床試験では、これまで使われてきた予防薬の効果が不十分な例にも有効と分かっている。片頭痛の発作の日数が半減した人が約60%、ゼロになった人が10%以上もいるという。月に4回以上の片頭痛なく、新薬の適応がある患者さんは多い。すぐにも使ってみたい薬である。

しかし、薬剤費が問題だ。皮下注射は、最初の月に2本必要である。次からは、毎月1本になる。健康保険は使えるが、3割負担の場合は、注射薬1本が1万3500円だ。最初の月は、注射薬だけで自己負担が2万7000円にもなるのである。

「なんだ。それくらいか」と思うひとは、お金持ちなのだろう。が、ワッシーのような貧乏性の医者には、患者さんの財布の中身が気になってしかたがない金額である。昔は、「医者とは、患者さんがお金持ちか貧乏か、社会的地位の上下に関わらず、どんなひとにも同じように対応し治療をすること」と教えられたものだ。

が、時代の流れには勝てない。今どきの医者は、患者さんの懐具合もよく知っていて、余裕のありそうなひととそうでないひとに、最初から違う治療法を選ぶよう求められるのだろうか？

イヤな世の中になってきているような気がする。

(一)石黒修三 しいしへろクリニック・脳神経外科専門医・6/28 北國新聞掲載